

平成 29 年 なにわの片葉葦保存会同好会

秋のミステリーツアー終了報告書

参加されました皆様へ

先日はお疲れ様でした。11 月に入っての冷え込みで、紅葉前線が早くなり、また天気予報にも迷わされ心配を抱えてのスタートとなりましたが、その心配の全てが予想に反してうまくいきました。

これも偏に皆様方の念力の賜と幹事といたしまして感謝申し上げる次第でございます。

疎水記念館で貰ったパンフレットにも地図がある様に、南禅寺を中心にぐるぐると回るコースでしたが、けっこうな距離を歩いていると思います、幹事としてお疲れの出ないことを切に願っております。

尚、当日のコース順路や各所の簡単な説明を下記に簡単に記しますので今後の参考になれば幸いに存じます。

記

◎京阪三条＝蹴上駅（地下鉄東西線）～ねじりまんぼ～金地院～南禅寺勅使門～南禅寺界限別荘群～永観堂
～南禅寺三門～水路閣～琵琶湖疎水出口付近～田邊朔郎銅像～インクラインを下る～岡崎船留まり～昼食
レストラン「ツムギ」（京都国際交流会館 2 階）～瓢亭～無鄰菴（見学）～疎水記念館（見学）～平安神宮
～京阪出町柳駅（タクシー利用）＝帰途につく。

ねじりまんぼ：普通のレンガ造りのトンネルの様だが、入ってみると奥に吸い込まれる様な感じを覚える、これはトンネル全体の荷重を軽減するためにレンガを斜めに積まれているからです、うまく考えたものです。

両方の出入口には有名な人の書いた揮毫が掲げられています。

金地院：(1605 年) に他所から以心崇伝がこの地に移し、徳川家康の庇護を受け南禅寺の筆頭塔頭となった。「鶴亀の池」は小堀遠州の作。方丈襖絵は狩野探幽、尚信兄弟の作。境内には東照宮もあり見どころ満載。

南禅寺勅使門：天皇の勅命で寺に入る時のみに開門される。

南禅寺：臨済宗南禅寺派の大本山。文永元年（1264）に亀山天皇が造営した離宮が前身で、(1291) 無関普門を開山にして寺に改めた。その後、足利義満から「五山之上」に列せられ、禅宗の最高に就くが、応仁の乱で伽藍を焼失。戦国の世が終わってから徐々に復興された。南禅寺のランドマークで高さ 22m の三門は（1629）に藤堂高虎の寄進により再建された。

南禅寺界限別荘群：明治中期から昭和初期にかけて南禅寺界限に著名な人達により展開された別荘建築。

永観堂：正式名は無量寿禅林禅寺「もみじの永観堂」の異名をとる。弘法大師の高弟の信紹僧都が平安初期に創建。平安後期に永観律師が浄土念仏の道場として中興した。本尊は「見返り阿弥陀」と呼ばれる阿弥陀如来像。

琵琶湖疎水：琵琶湖と京都を結ぶ水の路。明治維新後、東京奠都により活力を失った京都を再生させ、近代化に貢献した一大プロジェクト。

古くは豊臣秀吉の時代から幾度となく計画されていた事業であったが、余りの難事業の為実現に至らなかった。

明治維新以後、衰微する京都の街の復興対策として計画された壮大な疎水事業の立役者は、明治14年に就任した三代目知事の**北垣国道**と弱冠23歳の**田邊朔郎**の二人であった。北垣知事は卒業論文で疎水計画の可能性を立証した田邊を主任技術者として設計にあたらせた。その目的は舟運、発電、灌漑、飲料水、防火、工業用水と多岐にわたった。明治18年に着工したが、貧弱な土木技術や機械類の不備でほとんど人力だけの工事は難儀を極めた。大津から山科盆地を抜けて蹴上まで、日本で初めて堅坑を使って掘られたトンネルも長大となり、第一期工事だけで国の土木総額を上回る費用と5年の歳月をかけて明治23年に完成した。

竣工を喜んだ京都では大文字の送り火が灯され、祇園祭の鉦が立ち並び、日の丸提灯行列が行われたという。翌年には日本初となる水力発電所が蹴上に稼働し、この水力発電により電灯がとまり、明治28年には京都～伏見に日本初の路面電車が走った。京都にもたらされた豊富な水は、機業をはじめとする電灯産業を近代化へと導き京都の産業発展の原動力となったのである。

近代化の象徴 **水路閣**とインクライン：エキゾチックな赤レンガのアーチが印象的な南禅寺境内の水路閣は疎水事業の一環として施工された水道橋。建設当初は福沢諭吉に古都の景観を損なう「**いわゆる文明流に走りたる軽拳**」だと酷評されたが、今なおお役で、京都の代表的な風景の一つとして親しまれ、サスペンス映画の舞台にもなっている。

水路閣は古代ローマの水道橋を手本とした全長93mの橋である。

インクラインは「**舟が山を登る**」と多くの見物人が出た傾斜鉄道。パンフレット参照してください。

瓢亭：朝がゆで有名な和食の料亭。明治の文人墨客が多く利用したといわれている。

無鄰菴：山形有朋が小川治兵衛と作った庭を持つ別荘。パンフレット参照。

琵琶湖疎水記念館：パンフレット参照。

平安神宮：明治28年、平安奠都1100年を記念して創建された。祭神は平安京の創始者、**桓武天皇**と昭和15年に合祀された**孝明天皇**を祀っている。応天門をくぐると白砂を敷いた境内が広がり、その向こうに鴟尾を戴いた大極殿がそびえ立つ。応天門は平安京の大内裏の正門で大極殿はその正庁。平安神宮は平安京の建物の8分の5のサイズに復元されている。大極殿の両サイドには向かって右に「**蒼龍楼**」左に「**白虎楼**」の名をもつ楼閣がある。本殿後方には神苑が広がり、その広さは33000㎡、明治～昭和初期に活躍した小川治兵衛の作。池の水は疎水から引き込んでいる。

毎年行われる時代祭は平安京奠都の日が10月22日だったので明治28年以来変わることなく続けられている。

以上、簡単に説明を記しましたが、何かご質問がございましたらお聞きくださればと思います。

笹井 敏博